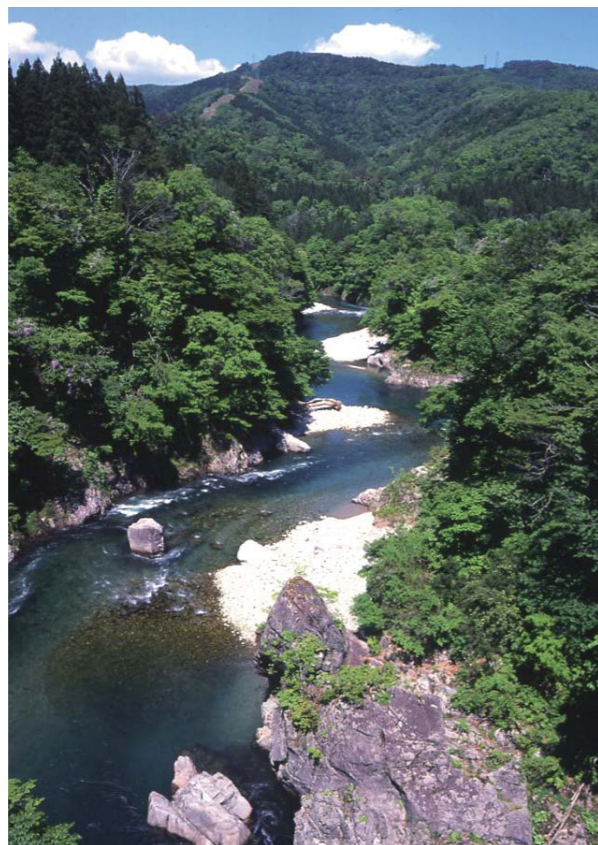
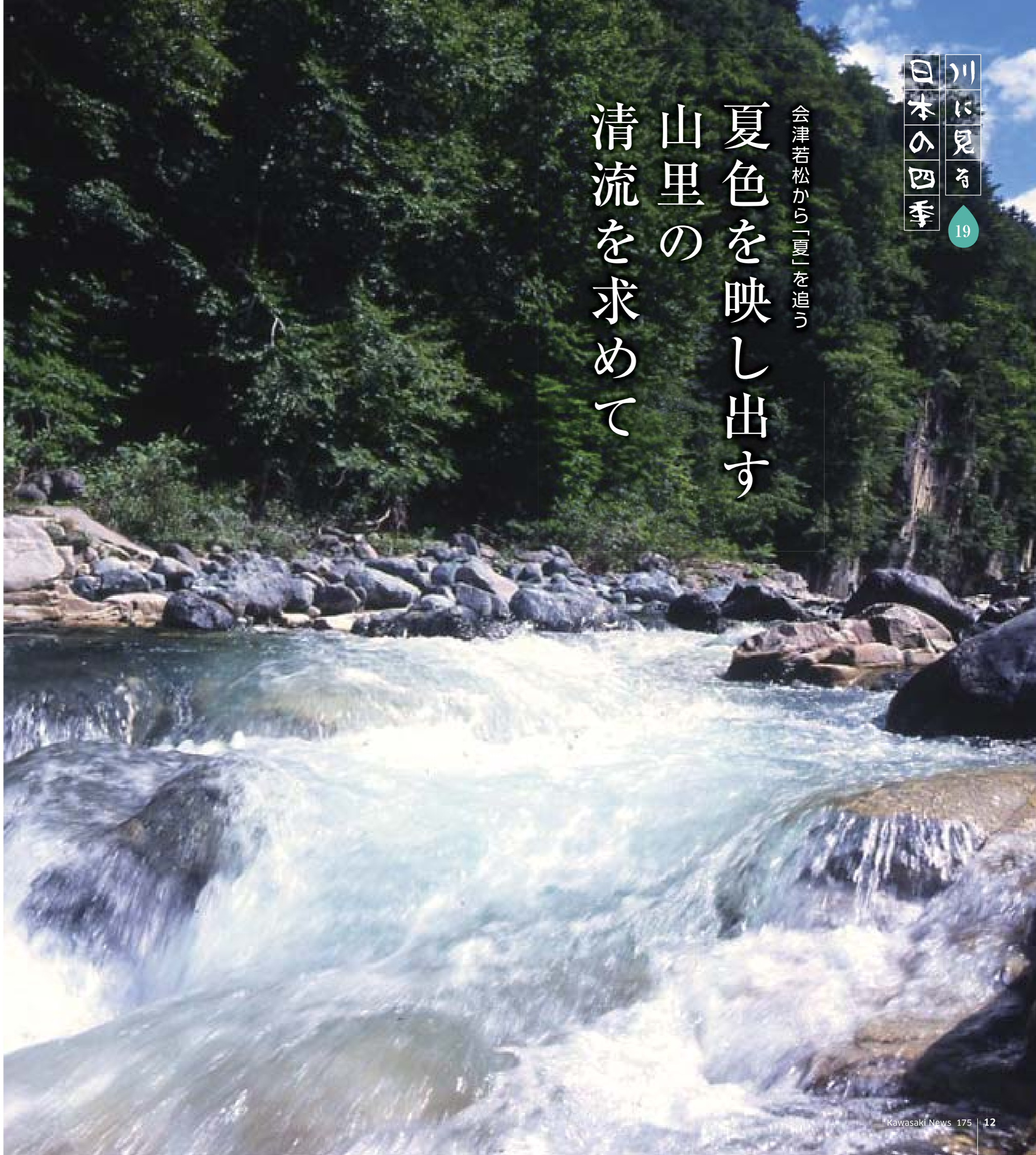


会津若松から「夏」を追う

# 夏色を映し出す 山里の 清流を求めて



【右ページ写真】檜枝岐川(ひのえまたがわ)が伊南川に流れ込むスポット。上流の檜枝岐村は温泉地として古くから知られている。登山客にも人気のエリアだ。  
【写真上】喜多方市から会津坂下町へ向かい濁川を撮影。越後山脈の上には夏雲が浮かんでいた。  
【右下】水質日本一に輝いた荒川の支流、玉川。清流が谷間に消えていく渓谷の美しさに惹かれシャッターを切る。  
【左下】会津盆地の田園地帯を流れ抜ける阿賀川。夏の陽を浴び、水田の稲は順調に育っていた。実りの秋にはまた違った表情を見せてくれるだろう。豊作を祈り、再訪する日を楽しみにこの地を後にした。

むせかえるような草いきれの中、汗をぬぐいつつ溪流沿いを歩く。穏やかな春とは一変、再び訪れた会津の川辺は濃く力強い緑に包まれていた。この夏、撮ってみたい川がいくつかあった。「命の川」と呼ばれる阿賀川(あががわ)の田園風景、会津盆地が一望できる喜多方の濁川、名勝地・赤芝峡(あかしばきょう)にほど近い玉川の渓谷美……。どこから巡ろうかと迷ったが、まずは鮎釣りのシーズンを迎えている伊南川(いながわ)へ向かうことにしたのだった。

伊南川は鮎釣りの名所として知られ、この時期は多くの釣り人で賑わっている。自分も釣り用のゴム履を履き、人の少ない上流を目指して川中を歩いた。川底は苔で滑りやすく注意が必要だった。水の流れが美しい岩場に撮影場所を決め、川の中でじっとシャッターチャンス待。夏とはいえずは冷たい。大物でも釣れたのだろうか、蟬の声に混じった釣り人の歓声を遠くに聞きながら、輝く清流の飛沫にシャッターを切った。